

平成17年度

津曲学園事業報告

## 津曲学園法人本部

### 1. 規程関係

#### (1) 新設

監事監査規程、財務関係書類閲覧規程、個人情報保護規程、退職金規程

#### (2) 改定

寄附行為、就業規則、育児休業規程、介護休業規程、期限付教員規程、期限付職員規程、住宅手当規程、旅費規程

#### (3) 廃止

私宅電話料金一部負担内規、退職金支給規程

#### (4) 国が定めた「次世代育成支援対策推進法」に基づいて「一般事業主行動計画」を策定し、鹿児島労働局へ届け出た。

行動計画の内容は次のとおり。

①配偶者出産休暇の取得しやすい環境整備

②育児休暇取得後の原職復帰

③政府推進の次世代者応援プランの一環として「学生支援センター」の建設（ワンストップサービスの一環）

④幼稚園、子育て支援センターとして「ちびっこクラブ」の充実

### 2. 財政問題

#### 〈人件費関係〉

#### (1) 人件費の抑制策を講じ、財務体質の改善を図る

①平成17年度の給与改定は、1/2定期昇給のみを行いベースアップはしなかった。

②賞与等について、支給率5.53ヶ月を→5.33ヶ月とした。

③住宅手当について、自宅所有者（持家）に対する支給を一律一部減額及び学園寄宿舎入居者に対する手当を全廃した。

④役職手当について、理事長含む全役職手当を段階的に減額した。

⑤技能手当について、一律減額した。

⑥入試手当について、一律支給率16.4%を→10.0%に減額した。

⑦旅費規程について、日帰り可能地区は原則日帰りとし県外日帰り当3,000円に増額した

なお、給与体系表の見直しについては、平成18年5月理事会以降検討する。

#### (2) 退職金制度の見直し

永年の検討事項であった退職金改正については、鹿児島労働基準局へ就業規則改正の為の「意見書」を鹿高以外を平成18年3月30日提出、鹿高については、同4月24日に「意見書が未提出」の旨の届出をし、全て受理された。

昭和62年、退職金問題検討委員会発足以来、19年以上の歳月をかけた退職金改正がひとつの節目を迎えたことになる。

#### (3) 超過勤務の削減

直属の管理者は、超過勤務の実情を見据え、どこに原因があるかを把握し対策をとるよう指示した。

#### (4) 諸手当の見直し

規程改正により手当の見直し（削減・廃止）を行い、18年度以降も同様に進める。

#### (5) アウトソーシングの導入

18年度以降も検討する。

#### 〈経費関係〉

#### (6) 広告費削減

各校が年次計画で地元新聞に掲載する、入試関係広告を学園全体で紙面購入をし、全体価格を抑制することが出来た。18年度以降も同様に進める。

なお、今後も必要最低限の広告掲載に努める。

#### (7) 備品の学園全体での一括購入

従来どおり同様に進める。なお、今後は事業部増収も念頭に入れ「事業部発注」による経費抑制・増収をも検討し進める。

#### (8) 資金運用の効率化

学園資金運用内規により、資金運営委員会を7回開催し、安全性を重点に資金運用をした。

### 3. 人材育成

#### (1) 新採用・管理者研修会の研修制度の充実

新採用・管理者研修会は従来どおり行ったが、今後は、組織の大小の違い等もあり、根本的に見直しの時期に迫られてきているため検討を要する大きな課題である。

なお、外部研修では、「中間管理職セミナー等」に学園全体で、13名が参加した。

#### (2) 資格取得補助金制度

18年度以降も検討する。

### 4. 事務の合理化

#### (1) システムの構築

#### (2) 事務処理体制の確立

#### (3) ペーパーレス化の導入

事務処理の迅速化・適確化を前提に新システムの導入や、学内研修を取り入れ成果を得た。

17年度は、幼稚園を改善重点校（園）として、18年度以降は、鹿高・修学館を重点校として改善を進め、人員配置を見直し人件費抑制に繋げる。

なお、規程集や教職員への配布文書等をペーパーレスすることを検討し、18年度6月以降（一部スタート）、新規規程システムの導入・学園教職員向けホームページ「お知らせ掲示板」を構築することにより、経費の抑制や迅速化を図る。

### 5. 平成17年度予算

平成17年度法人全体の当初予算では、収支差額は-314百万円であったが、決算では-182百万円となり、132百万円の改善となった。

その主な要因は、各校の経費節減努力と、納付金・補助金の増加によるものであった。

### 6. 校舎建設

設置基準のとの関係で県当局と打合せを行った。早期に建設ができるよう更に検討を進める。

### 7. 大学改組新学部構想への対応

大学と連携を取り対応した。

### 8. (財) 日本高等教育評価機構による第三者評価への対応

今年度評価申請するにあたり、大学・法人において報告書を作成し7月末までに提出する予定である。なお、実施調査は10月11・12・13日の3日間が予定されている。

### 9. 情報公開及び個人情報保護法への対応

学園全体での「個人情報保護規程」を制定した。それに合わせて各校においては、実態に即した内規や細則を定め、運用を開始した。

なお、大学事務職員においては、外部講師による同保護法の講習会を開催し、適切な運用を目指している。

### 10. 中期計画策定（学園全体）

引き続き検討を進める。

以上法人本部

## 鹿児島国際大学大学院 経済学研究科

### 【1】 教育方針

経済学研究科長の諮問のもとで平成17年6月に発足した教学検討委員会の中間答申が18年4月研究科会議に提示された。そこでは、博士前期課程における、①入学者増加に向けた努力、②「経営学専攻」の増設、③教員の補充と担当科目の増加、前期課程、後期課程を含めた、④国際競争力・知名度の向上、⑤地元の地域社会との結びつきの強化、⑥優秀な修了者の本学教員への登用努力、⑦国内外の大学院との単位互換を含む相互交流の促進等が勧告されている。研究科長はそれらについて、科長代理、教学委員との協議の上で、可能なものから実現を目指す方針である。また、本学の「修士の学位を有するもの」の再入学制度の見直し、および博士後期課程の修了要件についての再検討を行った。

### 【2】 重点施策

#### ①教育・研究の重点施策

上記教育方針の一環として、後段の再検討項目についての学則改正を提案し、平成17年度12月評議会で承認された。また、博士前期課程構成教員による演習担当者の拡大が研究科会議で決定され、それに向けてのカリキュラム改正の準備が進んでいる。

#### ②三大学シンポジウムへの参加

平成17年12月10日に札幌大学で開催された、環境問題についてのシンポジウムには、報告者としての菅井教授のほかに、研究科長ならびに大学院事務室長が参加し、今後の取り組みについての打ち合わせを含む交流を行った。

#### ③社会人院生受入れ態勢の整備

税理士資格等取得試験一部免除条件の変更に伴って、「税法」の重要性が高まったのを受けて、当該科目の充実に向けた人事配置の検討を続けた。その結果は、平成18年度に具体化される見込である。

#### ④学位授与状況と学生受入れ状況

平成18年度春季入学試験合格者は博士前期(修士)課程12名(前期日程5名、後期日程7名)、博士後期課程1名(後期日程)であった。更に17年8月に初めての17年度秋季入学試験を実施し、前期(修士)課程2名を合格とした。更に、平成18年5月の台湾高雄での現地試験(平成18年度10月入学)の実施に向け、台湾国立高雄応用科技大学への業務委託契約手続きが完了し、実行に向けての準備作業が進んだ。

17年度は7名の院生に経済学修士の、2名に経済学博士(課程博士1名、論文博士1名)の学位を授与した。

#### ⑤施設・設備計画

三研究科長連絡会議の合意により、6号館の大学院棟化に向け、自習室、会議室、ゼミ室等の整備についての検討が事務当局と共に進められ、一定の進展をみた。

## 福祉社会学研究科

1. 本研究科に博士課程を設置するために、具体的な検討をすすめる福祉社会学研究科博士課程設置委員会を設置した。

ここまで博士課程の目的、カリキュラムや研究指導のあり方、教員配置などの博士課程の教育・研究の骨格についての検討を重ね、平成19年度開設にむけての準備作業を鋭意進めてきた。博士課程の設置については修士課程修了者および地域の福祉関係者からの要望が以前からあり、それらの声に早期に応えるべく申請事務促進のために大学院事務室の陣容強化も図られ、3月末現在一部人事案件を残すのみとし、申請準備はおおむね完了した。

2. 本研究科での教育・研究活動をさらに高度化し、多様化していくために、本年度は地域社会のなかの社会福祉第一線で活躍する社会人の入学を促進し、また、外国人留学生を積極的に受け入れることも今後検討の余地を残す。

さらに、社会人、外国人留学生の入学者の確保については、10月に実施した平成18年度入試(前期日程)において、それぞれ1名が合格し、入学手続きを終えている(一般入学試験枠での合格者を加え、前期日程試験では合計4名が手続き完了)。平成18年3月実施の後期日程試験では、一般3・社会人4の計7名が入学手続きを終了した。

3. 大学院生と教員とが社会福祉実践の場において協働してすすめる教育・研究活動、すなわち大

学院プロジェクト研究（実地研究フィールドワーク）を引き続き充実させ、展開している。

年度当初の4月から「地域参加型機能訓練事業（鹿児島市）」を調査対象（600名）として準備に取り掛かり、面接・配票調査・参与観察などの手法を用いて総合的な地域調査を9・10月に実施した。このプロジェクト研究には、修士課程1年在籍者8名全員と担当教員3名が参加している。実際の作業は、鹿児島市内17地区の「お達者クラブ」および市保健所と中央・東部・南部・西部の各保健センターの協力を得ながらすすめている。3年目の今年の研究においても、地域の活性化や高齢住民の健康増進における効果など、「地域参加型機能訓練事業」全体の評価に関する結果が得られることが各方面から大いに期待されているところである。平成18年5月中旬に報告書作成・公刊した。

#### 4. 2005年度鹿児島国際大学社会福祉学会主催による大学院福祉社会学研究科設立5周年記念大会の開催を行った。（日時2月4日（土）午後1時から 会場710号教室）

鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科ができ、今年で5年になり、すでに27名の修了者を輩出している。昨今大学院のあり方をめぐってもいろいろなところで議論されているところでもあり、また、本学の大学院教育を振り返る意味でも、記念大会を開き、修了生を交えて、これからの大学院教育のあるべき姿について考えてみる記念大会を実施した。この会が修了生同士、また現役大学院生や学部学生との交流の場となり大変有意義であった。特に博士課程設置に向けてOBから積極的な声が多くあり、研究科としても勇気づけられた。

### 国際文化研究科

国際文化研究科では、言語コミュニケーション能力・情報処理能力、および国際視野に立った異文化理解・自文化理解能力を養成し、国際性と地域性の両面において指導的な役割を担う専門的職業人および研究者の養成を目的にして、以下のような教育・研究活動を展開した。

平成17年度は、国際文化研究科在籍の大学院生は、1年次19名、2年次15名（秋季入学5名、うち1年半の早期修了予定学生3名を含む。）であった。

学位授与 修士学位9名（早期修了学生2名を含む。）。国際文化研究科初めての修了生であった。情報言語分野の講義を受講する学生は、少数であった。前期開講の授業受講者3名、後期開講の授業受講者1名である。

特色ある学習形態としてのワークショップ方式の授業は、全5コースのワークショップのうち、前期は全5コース、後期は4コースを実施した。

施設・設備は、少数ゼミ教室2室とセミナー室1室を新設された。

### 鹿児島国際大学 経済学部

#### 【1】 重点施策

教育・研究の重点施策

- ①資格を希望する学生には、事業計画書で紹介したMOUSEやマイクロオフィススペシャリストのみならず、システムアドミニストレータ、販売士、日商簿記、激辛TOEICを始め、教員養成、業界研究等のスキルアップ講座が正規の授業以外にも開設されている。
- ②経営学科は、上記の資格の一部を授業のなかでもサポートする講座（例えば教養特講Ⅰ、Ⅱ）があるが、学科独自に中小企業診断士、税理士等の資格を目指す学生のための科目（例えば経営学特殊講義Ⅲ、会計学特殊講義Ⅰ等）も開講している。
- ③なお、事業計画書で紹介したWebプログラミングは、すでにこの平成17年度から、経営情報コース科目のなかの2年次の専門科目としておかれている。
- ④教員に関しては、平成17年9月から、台湾より1年の予定で研究員1名を受け入れている。本学からの教員派遣（海外留学を含む）はここしばらく途絶えていたけれども、前期に1名が短期留学を終え帰国した。また、来年度イギリスに1年の予定で1名留学することが決定している。学生の国際的交流は交流センターを通じていくつかの提携校と行われているが、本年度は経済学部からの留学希望は残念ながらなかった。
- ⑤外部に公開するオープンセミナーでは、生涯学習講座「学生と共に学ぼう」のなかで、いくつかの新規の開講講座が見られる（例えば、情報活用、経済学史等）。
- ⑥今年度（平成18年度）より学生の募集定員が、経済学科は260名から200名へ、経営学科の定員は260名から150名へ減少した。言うまでもなく教員1人当たりの学生数は減少し、1人当たり学生が利用できる設備やユーティリティも特段に改善され、教育効果はこれまで以上に高まった。

と思われる。ただ、募集定員を絞った割には、競争率はそう高くならなかった。

- ⑦カリキュラムの抜本的な見直しを行っているが、共通していることは両学科ともに2年次からの上限単位の見直しを図ったことである。また、経済学科は基本科目の創設と、新たにコースを設けて学生への履修ガイドを明確にした。経営学科はカリキュラムの中身に変化はないものの、資格取得のための授業科目を強化している。
- ⑧今年度から経済学部には新学科「地域創生学科」が開学科した。準備期間が短かったせいか、受験者が予想以上に少なかったことは残念である。今年度は宣伝と募集活動をしっかりしなければならないと思われる。

## 福祉社会学部

学部の「事業」とは

前年度中に決定されたカリキュラムにしたがって、それを着実に実施することができた。

学部の「事業1」に付随するものを以下に列記する（「事業計画」の項目に対応させて）。

カリキュラムの改革が、現代社会学部を主として一部は実施できた。しかし、全体的にはその実施は2007年度からになる。

FD活動が計画通り実施された。本学部を対象とし、全学向けの研究会も行った。

学部の自己点検・評価は、大学が要請する形で実施できた。

各種実習教育を実施した。それに加え、主として学外参加者を対象とする介護福祉士向けの講習会、精神保健福祉士向けの講習会をそれぞれ行った。

有期のPostdoctoral Researcher（若手Ph.D取得者教員）1名を採用した。後期より着任し授業も担当した。

採用人事は、児童学科2名、社会福祉学科1名。

学部紀要4回刊行

学部研究委員会主催の研究会3回開催

## 国際文化学部

〔成果〕

コースの再編成などによる帰属集団の形成など、きめ細かな対応が前進した。その結果もあって、留年率が大幅に減少した。

言語コミュニケーション学科のコース再編のめどが立った。

中国・韓国と交流校へ交換留学生をそれぞれ2名派遣し、また、本学への受け入れを行った。教員についてもカナダ、中国合わせて3名の派遣交流を実施するなど、国際交流の実績を着実に積み上げた。

『国際文化学部論集』、『博物館年次報告』を予定通り刊行した。

学部運営面では、学科を基礎に教育に当たる体制が整えられた。学科長の役割が重要になっている。

〔課題〕

学部教育と進路に関する関連の強化は残されたままである。なお、進路に関しては、教育との連接の視点は残しつつ、独自課題として追及する必要がある。

専任教員は3名減員した。教員構成に関する「構想」が未確立のままである。

## 鹿児島国際大学 短期大学部

情報文化学科においては17年度重点課題として、就職率の向上とそのための学生の就職意欲を高めるための指導を強めるという課題を設定した。あわせて就職試験、特に筆記試験を突破できる学力の養成という課題を前年度に引き続く課題として取り組むこととした。

就職意欲を高める指導は、これまで行ってきた全体的な指導の強化ではこれ以上実効が上がらないという総括にもとづいて、ゼミナールごとにそれぞれの担当教員が、就職委員の教員が準備した最新の求人票にもとづいて学生に応募を勧めるという方法をとった。このことが学生の動きを活性化するうえで一定の効果をもたらし、さらにその活性化が学生の動きをいっそう進めるという方向により影響を与えたように思われる。

学力向上に関しては、授業科目としての「日本語表現」における文章指導のいっそうの強化と、コンピュータ演習の授業と連動させたカレッジライフの時間におけるゼミナール単位のプレゼンテーション作品コンテストを行うことによる表現能力の向上に取り組んだ。就職指導に関しては音楽科の教員にも指導の強化を呼びかけ、両学科で学生への指導を強めた。結果として、両学科とも

昨年よりも就職率をアップさせることができた。(情報文化学科 71.7%→81.8% 音楽科 63.6%→74.1%)

音楽科においては特別講座のほか、学生に演奏の機会を多く与え、また地域の人々に広く音楽科の活動を理解してもらうため、伊集院高校との合同演奏会を伊集院町の市民文化ホールで開くなど学生による演奏活動を積極的におこなった。この間に取り組んだものは以下の通りである。

#### 1. 特別講座ほか

- (1) 「音楽療法実践講座」
- (2) 「音楽療法特別講座」
- (3) 「舞台語発音法講座」
- (4) 「演奏法講座」
- (5) 「クラリネットコンサート」

#### 2. 学生の演奏活動

- (1) 専攻科音楽演奏専攻リハーサルコンサート
- (2) なかよしコンサート (音楽療法コース)
- (3) 学生定期演奏会
- (4) 吹奏楽特別演奏会 (伊集院高校との合同開催)
- (5) 副科コンサート
- (6) ポップスコンサート (ポピュラー音楽コース)

このほかに、「鹿児島新人演奏会」と「読売新人演奏会」に優秀学生を推薦し、公開での演奏機会を提供した。

### 学生・生徒募集

平成18年度の学生募集については、積極的な広報活動を展開し多様な入学試験を実施した結果、大学が志願者総数2,412名(対前年度322名の増)、入学者1,101名(対前年度53名の増)となり、短期大学部が志願者総数172名(対前年度13名の増)、入学者118名(対前年度20名の増)となった。入学者数は、各学部それぞれに入学定員を割った学科があったが、学部としての入学者定員比率は1.04~1.07倍となり大学全体としても1.06倍となった。短期大学部は0.91倍。

#### 1. 平成18年度入学試験制度

下記のとおり多様な試験制度を、試験時期も9月から3月末までの7ヵ月間をかけて実施した。

##### 【大学】

AO入学試験

推薦入学試験 (一般推薦 (B方式)・指定校推薦 (A方式)・同一学園推薦 (D方式))

一般入学試験

前期日程 (一般入試 (I方式)、大学入試センター試験利用入試 (R方式・S方式))

後期日程 (一般入試 (J方式)、大学入試センター試験利用入試 (M方式))

社会人入学試験 (I期、II期)、外国人留学生入学試験 (中国現地選抜含む)、帰国子女入学試験

編入学試験

##### 【短期大学部】

AO入学試験

推薦入学試験 (一般推薦・沖縄指定校推薦・同一学園推薦)

一般入学試験 (B方式、特待生入試、大学入試センター試験利用入試 (D方式・E方式)、C方式)

社会人入学試験 (I期、II期)、外国人留学生入学試験、帰国子女入学試験、専攻科入学試験

#### 2. 広報活動

広報活動として、下記のように多様な方法を用いて受験生や保護者、高等学校に情報を提供した。

- ① 本学主催入試説明会を6月末から7月にかけて、県内4地区 (鹿児島、川内、鹿屋、名瀬)、熊本、宮崎、沖縄の7会場で開催。
- ② 高等学校訪問を春季、秋季訪問の2回を大きな柱として、鹿児島県を中心に九州・沖縄地区を訪問。また、12月 (地域創生学科の案内)、1月 (大学全体および短期大学部の案内)、2月 (大学、短期大学部後期入試案内) の入学試験の前後での訪問も実施。
- ③ キャンパス見学会を8月6日と10月15日の年2回実施。
- ④ 本学卒業の高等学校教職員との教育懇談会を実施。
  - ⑤ 新聞社等主催進学説明会として九州・沖縄地区に参加。
  - ⑥ 高等学校での進路説明会への参加。

- ⑦情報提供のため大学独自に「大学案内」「入試ガイド」「入試要項」「リーフレット」「短期大学部キャンパスガイド」「みなみ風（広報誌）」などを作成。
- ⑧受験情報誌等掲載、新聞広告（連合広告、突き出し広告）、インターネット媒体での広報。
- ⑨ホームページによる大学・短期大学部の紹介の充実。  
高等学校と大学との連携を深めるため、全教員を対象に「出張講義テーマ一覧」を作成し、高等学校に配付。延べ35の出張講義を実施。

#### [改組計画]

- 平成18年4月から経済学部を以下のとおり改組した。
- 新たに「地域創生学科」を設置。（入学定員60名）
- 経済学科の入学定員260名を200名に変更。（△60）
- 経営学科の入学定員260名を150名に変更。（△110）
- （経済学部全体の入学定員は、520名を410名に変更）

#### [施設・設備関係]

- ・学生サービスの向上を目指した新館建設  
7月に「学生総合支援センター」が完成し、学生生活にもつとも関係する学生部・教務部（実習センターを含む）・進路支援センターのワンエリア化が実現した。  
また、8月～9月にかけて学生相談室を移設・拡充し、新たな学生ホールも設置される等、学生サービスの向上を図った。
- ・新学生情報システムの構築（平成18年4月稼働）  
平成18年3月中旬より、履修登録を手始めに本番を開始した。  
今後、機能の見直し、改良等を行って完全なシステムにしていく予定である。
- ・カフェテリア室の拡充  
第二カフェテリア室（パソコン40台）として利用中である。  
今年度からeラーニングも稼働しており、それに対応したレイアウト、設備を導入し、利用者がかなり増えている。
- ・情報処理教室のパソコンリプレース  
リプレース完了。  
7号館LL教室の機器の入れ替え（パソコン化）  
語学教育、パソコンの授業等で利用中。英語のeラーニングでも利用。
- ・eラーニングシステムの導入  
英語のeラーニング（ALC）、本学独自の教材のeラーニングが稼働中。
- ・キャリアデザインシステムの開発  
システムを構築し後期の授業から利用中である。
- ・出席管理システム  
無線LANを利用した端末でシステムを構築して、一部稼働中である。  
平成18年1月に、全学的なテストを行った。平成18年4月から、全教員（非常勤を含む）、全科目での利用を予定している。
- ・会計システムの改善  
システムの構築は、ほぼ完了し、一部の機能を除き本番稼働中である。

#### [その他学校における重点施策]

- ・公開授業の全学的実施  
全学的に「授業公開」がスタートした。専任教員・非常勤講師とも、担当科目から1科目以上を選び、年1回以上の公開授業を実施した。
- ・学生による「授業アンケート」が実施され、集計・分析が行われた。
- ・キャリアデザイン系科目の設置  
平成17年度入学生より、仕事と人生・文章表現法Ⅰ・文章表現法Ⅱ・ビジネス実務の4科目を開講した。
- ・事務局配置のワンエリア化  
「学生総合支援センター」の建設にあわせて、全面的な事務局の配置換えと学生生活をより充実させるために、系統的な支援ができるように、システムの整備を図った。

e-ラーニングの導入（英語教育）

平成18年度からの本格的導入を目指して検討した。

以上 大学関係



## 鹿児島高等学校

### 【1】教育方針

1. 校訓「謙虚礼節」の精神に則って、豊かな教養と情操、強い体力の育成に努め、誠実で清潔な人格を培う。
2. 校訓「克己遂行」の精神に則って、様々な学習活動に積極的に挑戦し、個性や能力の啓発に努め、自らの人生を創造的に生きる力を培う。
3. 教師は、徳育・知育・体育の調和的な推進に努め、生徒の主体的な成長を積極的に支援する。

### 【2】重点施策とその進捗状況

#### 1. 教育指導の充実

- (1)「情報公開」(『教科教育計画』『教育実践』等による)と自己評価による透明性の確保
  - ・PTA総会(5月)において、「平成16年度教育実践活動」を参加保護者に報告した。
  - ・1・3年学年PTA(7月)、年学年PTA(9月)において学校長・教頭が17年教育活動を中間報告。その他、ホームページ、新聞、学校案内、ジグザグ等の学校発行紙において活動内容、実績等を積極的に公表した。
  - ・「教育実践」第2号を5月に発行し、関係機関に配布した。
  - ・自己評価は、教科、学年、各種委員会に関する年間評価を冊子にまとめて公表した。
- (2)教科教育法の推進・拡充(教科の魅力伝え、教科教育力の向上を図る)
  - ・教科教育法研究委員会を6回実施。委員会メンバーを鹿児島大学附属中学校及び伊敷中学校の研究公開授業参観に派遣(5/27, 6/3)し、出席者の報告に基づき中学校の授業について研究した。
  - ・数学科では、城西中学校数学科との相互授業参観を実施した。(7/13, 7/14)
  - ・校内においては、委員の授業を公開し合い、相互に授業研究を深めた。
- (3)学科の特色を生かした教育指導(カリキュラムの見直し)
  - ・18年度入学生から適用される新カリキュラム制定のための委員会を6回開き、学科の特色を生かしたカリキュラムを編成した。新2・3年生は英数科を中心に、18年度から移行措置を導入することとする。
- (4)職員(学年・教科)の協力体制の確立(学年会、教科会の定例化により意思疎通を図る)
  - ・学年会・教科会を定期的に実施し、学年・教科のみならず、生徒指導・進路指導に関しても協力体制が出来るようそれぞれの主任も出席した。
- (5)エネルギーの汲み上げ(アイデアを生かす)
  - ・数学科及び理科教員による自発的な教育実践活動が実施された。(夏休み夏季補習終了後の数学特別授業、授業終了後の理科特別セミナー)
  - ・放課後(17:00~19:00)、大会議室を自習する生徒に開放した。

#### 2. 進路の保証

- (1)3カ年を見通した計画的・継続的指導(進学・就職)
  - ・学年主任会、教科主任会へ進路指導主任(進学・就職)は常に出席し、適宜資料を提供しつつ、課題を指摘し協力を求めるなど学年、教科と連携を図った。
  - ・進路指導委員会で検討したものを教科と共同実践。(補習など)
- (2)一般入試にも対応できる学力の養成
  - ・普通科、英数科、情報ビジネス科それぞれの設置目的に応じ、各教科が年間授業計画に基づき個に応じた学力養成のための授業を実施した。
  - ・授業での不足分は課題、早朝・放課後の補習や個別指導等で対応した。
- (3)鹿児島国際大学への進学指導
  - ・鹿児島国際大学単独の説明会を開催し、また希望者にはキャンパス見学を実施して、同一学園大学に対する理解を深め、入学を勧奨した。
- (4)学年主催の進学指導の実施
  - ・2年普通科学年会在がイベント企画「さんぼう」と共催し、講師37名を迎えて進学指導を実施した。(3月)
- (5)キャリア教育(インターンシップ・資格取得等による)及び就職試験に対応できる学力・生活力の養成
  - ・就職指導室、商業科教員、情報ビジネス科担任を中心に四月から夏休みにかけて実施した。

#### (6) 学年に応じた就職指導

- ・資格取得のための教科外指導（1年）外部教師による職業指導講話（2年）三者面談、夏期補習、早朝学習指導、放課後のマナー指導を実施した。

#### 3. 生徒指導の充実

##### (1) 今日の課題への取り組み（性教育・薬物中毒など）

- ・学外講師を招き、性に関する講話、マナーに関する講話、出会い系サイトに関する講話、薬物乱用に関する講話を実施した。
- ・薬物乱用防止運動に協力してきたことに対して10月27日県から感謝状を受けた。

##### (2) 基本的生活習慣の確立

- ・全校朝礼時の服装・髪型検査、校門指導や通学指導、校外での補導活動、遅刻指導などを通じて生徒の基本的生活習慣の確立に取り組んだ。具体的な指導について15回委員会を開いた。

##### (3) 社会的マナーの育成

- ・1年生に禁煙指導講話、全生徒に制服着用の意義についての講話を実施した。

##### (4) 共通理解・共通実践に至る手だての構築

- ・生徒指導主任が常に学年主任会に出席し、共通理解のもとに共通実践を実施した。また委員会の検討事項は職員朝礼や職員会議で必ず報告し、共通理解を図った。
- ・校朝礼時に、適宜、全教員で服装髪型検査を実施した。
- ・SHRで生徒の服装髪型検査などの諸検査を行った

##### (5) 自転車盗難防止モデル校の指定を受けた。18年度も継続される。

#### 4. 保健指導の充実

生徒・教職員の健康・安全の維持・増進

- ・諸検査（内科、尿、心臓、レントゲン、眼科、歯科）を4月～6月に実施した。結果について学校保健委員会で報告し校医よりアドバイスを受けた。2月の学校保健委員会では17年度の反省、18年度の計画、保健室利用状況などについて協議し、校医よりアドバイスを受けた。
  - ・危機管理委員会で不審者への対応（来校者は必ず事務室で受け付け）、安全点検（15日を安全点検の日に設定）、教職員の避難訓練、防災訓練（年2回実施）、セクシャルハラスメントへの対応や通学時の安全確保などについて検討した。不審者への対応とセクシャルハラスメントに関してはマニュアルと規定を作成した。校舎周辺に2カ所、街灯を設置した。
- ##### (2) 校内美化の推進（教室・部室の整理整頓、清掃の徹底、空間の美化）
- ・日常の清掃活動の外、体験入学や中学校PTAの来訪、入学試験等を機会に大掃除を実施した。

#### 5. 生徒の確保と定着

- ・企画広報部の仕事分担を明確にし、塾・マスコミ対応の係を新設した。また塾を訪問するなど協力関係の構築に努めた。
- ・体験入学を1回増やし2回実施した。(8/20, 10/22)
- ・入試会場を指宿に新設し、入試説明会場を国分から始良に移した。
- ・入学試験において、英数科（5教科受験）合格者へ得点開示を実施した。
- ・「私学フェア」へ参加した。(鹿屋6/25, 鹿児島6/26, 川内7/3)
- ・学園本部と連携し、マスメディアを積極的に活用した。

#### 【3】改組計画

##### 1 教科「外国語」の拡充の研究

- ・新カリキュラムに中国語、韓国語を開設することにした。

##### 2 単位制学科または通信制学科の設置研究

- ・研究未実施。

##### 3 中高・高大連携の研究

- ・鹿児島国際大学教務部との意見交換実施（7/13）。今後も継続して実施予定。

#### 【4】生徒募集計画

##### 1 現状

##### (1) 中学校訪問

- ・学校長による市内中学校訪問（4月）～市内近郊中学校を47校訪問した。
- ・5・9・1・2月に市内近郊約50校、7・12月に県下全中学校約270校を訪問した。

- (2) 1日体験入学の実施(8月)
  - ・8月22日(土)の第1回体験入学は参加者576名。
- (3) 商業科職員による情報ビジネス科案内のための中学校訪問
  - ・10月推薦入試受験生勧誘のための中学校訪問を実施。(市内全中学校)
- (4) 年2回(4月、10月)の生徒募集プロジェクト委員会。
- (5) 年2回(6月、11月)の広報パンフレットの発行。
- (6) 学校案内を発行、全中学3年生に配布した。(9月)
- (7) がんばれ受験生(入試時)と合格速報(3月)の発行。
- (8) その他(体育祭・文化祭、進路・就職・芸術祭)ポスターの発行・配布。
- (9) 中学校における上級学校説明会への参加(約90校)
- (10) 県内5カ所(鹿児島、川内、始良・国分、加世田、鹿屋)における本校主催の入試説明会開催。
  - ・参加校 鹿児島42校、始良11校、川内6校、加世田6校、鹿屋10校

## 2 1日体験入学の拡充

8月の体験日に加え、進路がある程度見定まった生徒を対象とする1日体験入学を実施した。

- ・10月22日(土)、175名出席。

## 3 積極的な広報活動(メディアの積極的な活用)

- (1) ホームページによる学校紹介
- (2) テレビ、新聞等による学校及び入試に関する紹介
- (3) 生徒の投稿指導、演劇部東京公演の放送・新聞掲載要請の実施。

## 4 入学試験場の整備・拡充

始良会場新設による受験者増の実績を踏まえ、指宿地区に入試会場を新設した。

## 5 私学フェアへの参加

鹿屋・鹿児島・さつま川内市の3会場で実施。

## 【5】施設・設備計画

### 1 校舎改築の実施

- ・喫緊の課題である校舎改築について理事長への申請(9/7)をした。
- ・資料を整え、経営委員会で説明をした(10/4)。平成18年度の予算計上が待たれる。

### 2 改築の規模、施設・設備計画

- (1) 学則定員の見直し
  - ・普通科480名、英数科80名、情報ビジネス科200名、計760名とした。(1学年)
- (2) 各部署からの要望集約(提出済み)
- (3) 各科からの要望(提出済み)

### 3. 既存校舎の耐震調査～未実施

## 【6】その他学校における重点施策

学業遅滞生徒及び出席の常でない生徒に対する特別指導

- ・夏季休業中に実施した。
- ・三者面談を実施した。(7月・12月)
- ・特別補習を2週間実施した。(8/19～8/26)
- ・年度末に最終的指導を実施した。

## 【7】その他

### 1. エネルギー教育実践報告書の発刊

15年度から3カ年間指定を受け、実践してきた事柄を168ページの報告書にまとめ関係者へ配布した。エネルギー教育実践シニア校としての認定をいただいた。

### 2. 高校総体に出場女子剣道・女子バスケット・男子ソフトテニスが団体で出場。

個人でバドミントン出場。関東同窓会の応援をいただく。(放送部の全国大会出場、演劇部の東京公演)

### 3. 制服の見直し

女子の中間服(長袖ブラウス)と指定ソックスを制定した。

### 4. 修学旅行で来鹿した多賀高校(茨城県)と本校2年普通科が交流会を持った。

以上 鹿児島高校

## 鹿児島修学館中学校・高等学校

### 【1】教育方針

建学の精神に則り、全人教育を基調として、社会の発展や人類の進歩に寄与し得る有為な人材の養成に努めた。

- (1) 生徒の個性・能力を伸ばし、自主性・独立性・創造性の涵養に努めた。
- (2) 自由と規律・寛容と協調の心の育成に努めた。
- (3) 進路実現のための学力の養成に努めた。
- (4) 健全で豊かな精神を養い、人生の真理と幸福を追求できる人間の育成に努めた。

### 【2】重点施策

#### 1 教育・研究の重点施策

- (1) 各部・学年・教科間の連携を図り、校務が円滑に進められ、教育活動に専念できる環境作りに努めた。
  - ① 学年主任会・教科主任会を定例化(週に1回時間割に組み込む)し、そこでの議題等を学年会・教科会に還元し、議論した。
  - ② 学校活性化のための各分掌に対する意見・要望・提案のアンケートを学期1回実施し、検討・改善した。(7/1, 12/1, 3/1)
  - ③ 職員室に「提案箱」を設置し、随時教職員の意見・要望等を聞き、検討・改善した。
- (2) 家庭・近隣社会・卒業生などとの密接な連携を保ち、効果的な教育活動を推進した。
  - ① 週報を発行した。
  - ② 文化祭・体育祭の案内・応援団の練習計画の案内を近隣社会に配布した。
  - ③ 保護者による保護者へのOBトークを実施した。(6/23)  
卒業生による中高生へのOBトークを実施した。(8/19)
- (3) 学校行事を効率的に運営し、授業時数を確保した。
  - ① 第二土曜日のみ休業とし、その他の土曜日にも授業を実施した。
  - ② 45分8限授業を実施し、授業時間の確保をした。
- (4) 各研修会を企画・提供し、教職員の資質の向上を図った。
  - ① 不登校傾向にある生徒の研修会を各学期、定期試験の午後に実施した。
  - ② 除細動器講習会を実施した。(10/12)

#### 2 進路指導の重点施策

- (1) 生徒一人ひとりが主体的な進路選択ができる力をつけるための指導を工夫した。
  - ① 高1生に進路適性検査を実施した。(11/24)
  - ② 各学年に毎学期進路希望調査を実施した。
- (2) 大学入試の現状や展望についての的確な進路指導ができるようにした。
  - ① 進学塾講師による進路講話を生徒・保護者に実施した。(5/20, 6/23)
- (3) 生徒の学力を向上させるために、学習習慣を身につけさせ、自学自習ができる力を高めていくように指導した。
  - ① 各学期に宅習調査を実施し、それに基づいた進路相談を実施した。(5月, 10月, 11月)
  - ② 定期テスト前に寮生を学校に残し、学習会を実施した。

#### 3 生徒指導の重点施策

- (1) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、よりよき人格の形成と品格のある修学館生を育成する努力をした。
  - ① 朝自習・朝補習・正規の授業等の遅刻者に対し「遅刻届兼入室許可願い」を教頭経由で提出させ指導を徹底し、改善させた。
- (2) 校則や社会ルール・交通規則等を遵守させ、規則正しい生活態度を身につけさせる努力をした。
  - ① 毎朝7:35~8:05に校門と校外(学校周辺)での交通・服装指導等を実施した。
  - ② 西警察署員による交通安全教室を1学期に実施した。(6/13)
  - ③ フレッシュマンセミナー時の自転車の安全な乗り方教室を実施した。(4/13)
  - ④ 始業式ごとに服装等一斉検査と生徒指導部長講話を実施し、生徒を啓蒙した。
  - ⑤ 消費生活出張講座を実施した。(1/31)
  - ⑥ 昼食時間、職員が二人一組で校舎内外の巡視をし、危険箇所をチェックし、生徒指導を実施した。
- (3) 他人への思いやり・知性あふれる心豊かな生徒の育成に努め、特に、生徒会活動やボランティ

ア活動の充実を図った。

- ①中 1 のフレッシュマンセミナーにおける霧島青葉園での福祉活動の実施, 車椅子の贈呈。(4/12)
- ②吹奏楽部による市医師会クリスマスコンサートの実施。(12/17)
- ③各種ボランティア活動への積極的参加。(主に長期休業中)

#### 4 保健安全指導の重点施策

- (1) 保健的学校行事等の効果的運営により, 生徒・職員の実態を把握して事後指導の徹底を図り, 生涯に渡っての「健康管理能力(疾病予防, 健康の増進)」を育成した。
  - ①各種定期検査の実施。②学校保健委員会の実施。(6/22)
  - ③高 3 生へのエイズ講話の実施。(1/27)
  - ④薬物乱用についての講話の実施。(高 2, 3 12/6)
- (2) 体育的学校行事等の効果的な推進と, 体育・スポーツ活動の継続実践により, 粘り強くたくましい心身を育成し, 生涯に渡る健康づくりの基盤になるよう努力した。
  - ①一日遠行の実施。(中 1, 2 は健康の森公園への徒歩往復 中 3 高 2 は桜島一周 高 1 は薩摩リサーチャースクール仙巖園 11/2)
  - ②新体力テストの実施。(1 学期)
  - ③外周のランニング・達成できるまでの縄跳び運動の実施。(3 学期)
- (3) 防火・防災に対する知識と理解を深め, 災害発生時に安全かつ冷静沈着な判断や行動のできる能力を育成した。
  - ①1 学期に防災避難訓練を実施し, 消防職員による指導講話を実施した。(6/3)
- (4) 環境整備並びに美化清掃の意識高揚を図り, より豊かな人間性を培う努力をした。
  - ①学期ごとの大掃除, 毎日の清掃時における教師と生徒との協同作業実施。

#### 5 全人教育の重点施策

個性豊かで気品のある人柄と, 向学心の強い人間を育成することを指標とする。そのために, 生徒は望ましい学習態度と健全な生活習慣を身につけるとともに, 自発的・自律的な気力を養成するよう努力した。

- ①文化講演会の実施。(中「おもしろ漢字ワールド」5/2)
- ②文化講演会の実施。(高「近代国家成立の発端となった一生麦事件と薩英戦争」)
- ③教育キャンプの実施。(中 7/14~7/16)
- ④修学旅行の実施。(高 1 ニューゼaland 10/24~10/30)
- ⑤中国琵琶・薩摩琵琶演奏会の実施。(12/15)
- ⑥1 日体験入学生の受け入れ。(マレーシア人 17 歳女性 12/19)
- ⑦スキー教室の実施。(中 3 1/9~1/13)
- ⑧外部講師による音楽授業「雅楽の実施」。(2/20)
- ⑨陶芸教室の実施。(高 1・2 月)
- ⑩カルト講座の実施。(高 3・2/28)

#### 【3】改組関係

魅力ある進学校としての鹿児島修学館中学校・高等学校のあり方を I N T 特別委員会(生き生きとした生徒を入学させる対策委員会)・各関連委員会等で検討し, 実施可能なものから実行に移すよう努めた。

- (1) 校時を見直し, 現在の 4 5 分 8 限から授業時間を確保しながら 5 0 分 7 限に改めるよう検討した。
- (2) 高大連携の達成のため, 1 8 年度からの国際大学地域創生学科オムニバス講座受講を計画した。(新高 2)

#### 【4】施設整備関係

- ①本館 3 階廊下窓手摺修繕工事の実施。②生物室吊下げ金具修繕工事の実施。
- ③体育館床支柱金具修繕工事の実施。④体育館防球ネット修繕工事の実施。
- ⑤パソコン教室システム等リース料の執行。
- ⑥電子天秤ほか教育研究用備品の購入。⑦図書を購入

[男子寮関係]

- ①水槽清掃工事の実施。②厨房グリストラップ清掃工事の実施。

#### 【5】その他学校における重点施策

- (1) 学校全体

家庭・PTAとの連携を深めながら、

- ①学力の向上 ②教科外活動の推進 ③生徒指導の充実を図り、教育目標の達成を目指した。  
また、45分8限授業、少人数指導等を推進し、教科外活動全体の充実を図るよう努めた。
- (2) 鹿児島修学館中学校  
高い学力の養成に努めた。そのために国語・社会・数学・理科・英語等の基礎教科は標準より時間増を図った。また、中高一貫教育の理念に立脚し、6か年を展望した効果的・合理的な教育課程と教科指導体制をとるよう努めた。
- (3) 鹿児島修学館高等学校  
6か年教育における高等学校普通課程の教育を行った。特に、国・公・私立の難易度の高い大学への進学を希望する生徒の進路実現も目指した。
- (4) 中学校における生徒募集のあり方を検討した。
  - ①学校説明会・オープンスクールの充実（イベントの実施など）。
  - ②学習塾との連携強化（理科実験教室の開催回数増）。
  - ③「学校案内」等パンフの充実（CD-ROM添付など）。
  - ④新聞広告の拡大（折込み広告の範囲拡大など）。

以上 修学館

## 鹿児島幼稚園

### 【1】教育方針

本学園の建学の趣旨及び教育基本法・学校教育法・幼稚園教育要領に則り、園児の心身の発達の特性、地域の実態に基づき、鹿児島幼稚園の歴史と伝統を重視し、鹿児島国際大学の教育実習園であるという使命を重んじて、子ども一人一人が楽しい集団生活のなかで、健全な心身を培うことができるように、生き生きとした幼稚園教育の展開を図っていく。

そのために、職員が協力し教育目標の達成に努力する。

- 一人一人を大切にされた教育に徹する。
- 子どもの主体的な活動を促すとともに、創造性を豊かにする。
- 基本的な生活習慣や態度を育て、豊かな心情を育む。
- 家庭との連携を密にし、子どもの自立に向けた基礎を育成する。

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境を生かして、元気で、明るく、のびのびと活動する、心豊かなたくましい幼児を育てる。

### (2) めざす幼稚園

- 魅力ある親しみのある幼稚園
  - ・美しく明るい、楽しい雰囲気になった生き生きとしている幼稚園
  - ・幼児が期待をもって登園してくる幼稚園
  - ・明るいあいさつ・歌声・会話があふれる幼稚園
- 内容の充実した幼稚園
  - ・清潔・安全で幼児が楽しく遊べる環境に配慮された幼稚園
  - ・使命感に燃え、常に創意工夫する職員による実践的な保育の充実した幼稚園
  - ・園児一人一人に寄り添い、大事にする幼稚園
- 地域に開かれた学校
  - ・家庭との連携を密にして、保護者に信頼される幼稚園
  - ・地域の子育てセンターとしての役割を果たす幼稚園
  - ・地域の諸学校、町内会、施設等との密接な連携で、地域に愛される幼稚園

## 【2】重点施策と推進状況

17年度は、3歳児の入園希望者の増加から、園児数281名、初の10学級(年少3・年中4・年長3クラス)と、「園児」「学級数」ともにこれまでの最大になった。

また、事故の無い安全で楽しい幼稚園、地域に支持される幼稚園を目指して教育・保育の推進・経営を図ってきた。

- (1) 子ども一人一人を伸ばす保育の充実
  - ア 保育・指導体制の充実
    - ・一人一人の意欲を高める年間指導計画の見直し・作成
    - ・学年を中心に保育研究・教材研究・環境づくり
  - イ 教員の指導力の育成
    - ・園内研修の計画的推進 → 全員が研究保育を行い、指導を受ける。
    - ・鹿児島国際大学との連携による研修の深化 → 児童学科の先生方の指導を受ける
    - ・初任者(3人)の研修を計画的に推進
    - ・記録に基づく実践的・累積的研修
- (2) 家庭・地域との連携の強化
  - ア 大学の先生等を講師に「子育て講演会」(年6回実施)
  - イ 未就園児とその保護者を迎えての「ちびっこクラブ」の開催 → 第三土曜を中心に年15回実施
  - ウ 親子のふれあいを高める「親子で遊ぼう」の活動を実施(月1回 第一土曜日)
  - エ 「園だより」「学年・学級だより」「子育て支援だより」の発行
  - オ 教育相談の実施
- (3) 心の教育の充実
  - ア 基本的生活習慣・態度の養成
    - ・重点＝「明るいあいさつ」の徹底
  - イ 異年齢での活動による仲間意識の高揚
    - ・「集団リズム」の計画的推進
    - ・異年齢の交流を図る「なかよしクラス」の実施(月2日)
  - ウ 絵本に親しむ活動の推進
    - ・母親の読み聞かせグループ「赤ずきんちゃん」との連携
  - エ 自然に親しむ活動の充実
    - ・花や動物を育て、生命に触れる「いのち」の教育
    - ・緑豊かなグラウンドとその周りで豊かな情操を培う
    - ※17年度中に、花壇6基を設置
    - ※グラウンド周囲の木々に巣箱を設置(職員手作り)
- (4) 保健・安全管理の徹底
  - ア 園内の事故防止・安全指導の徹底
    - ・施設設備・遊具の安全点検
    - ・「安全の日」(毎月20日)の設定と重点的指導
      - 年間計画を作成し、警察署や消防署から講師を招聘しての実際訓練も実施
  - イ 園バスの安全運行
  - ウ 不審者侵入の防止及び防災体制の強化
    - ・ビデオカメラでの日常的チェック
    - ・不審者対策の実地訓練を実施(7月 本園で6ブロック合同)
  - エ 健康教育の推進
    - ・歯磨き・手洗い・うがいの習慣づけ
    - ・年2回の身体測定
    - ・検便・検尿の実施
  - オ 食育の推進
    - ・幼児期にふさわしい給食の充実(完全給食)
    - ・食事マナーの計画的指導
- (5) 幼・保・小・中学校及び地域との連携
  - ア 近隣幼・保育所・小学校との連携

- ・小学校への訪問・いっしょになったの活動
- ・6ブロック内での幼・小連携の相互研修
- イ 中学校との連携
  - ・職場体験学習やボランティアの受け入れ
  - ※中学生が文化祭で大きな手作りベンチを作って寄贈
- ウ 地域（町内会や諸施設）との交流
  - ・敬老の日にちなんだ交流
  - ・地域行事（夏祭り）への園児の参加（出し物）
  - ・施設訪問（慈眼寺園、ハッピー園などへ）
- (6) 国際大学との連携及び教育実習の充実
  - ア 観察実習、本実習、保育指導法研修会の受け入れ
  - イ 学生の保育体験やボランティアの受け入れ
  - ウ 親子のふれあい活動に大学から出前コンサート（2月）
  - エ 夏祭りに沖縄出身学生が「エイサー」出演
  - オ 音楽専攻の学生が卒業を記念し、ミュージカルを発表
- (7) I T 機器の活用
  - ア パソコンによる事務の効率化
  - イ ホームページの充実（2週間ごとに刷新）
  - ウ 園児のパソコン活用
- (8) 施設・設備の充実
  - ア 緑化の推進
    - ・グラウンドに花壇の設置（6基）
    - ・サクラの植樹
  - イ 10教室に伴う楽器の移動（倉庫棚改装）

以上 幼稚園

### 津曲学園事業部

#### [事業方針]

事業部は、学生・生徒のニーズに対応した商品を取り揃え利便性を中心に置く。

また、各学校の消耗品等を一括購入しタイムリーに配給する。更に、安定した事業収益を上げ、各校に収益還元を行う。

#### [事業内容]

##### 1 販売用品の充実

学用品、事務用品、教育資材、印刷用紙、制服、その他商品の内容を見直した。

鹿高女子生徒の靴下が学校指定「校章入りのワンポイント靴下」となり、全校生徒一斉に販売を実施した。

鹿高女子生徒の中間服・夏服の制服の見直しを検討した結果、長袖の着用を認め好評を得た。

取扱店は、従来どおり、山形屋、三越とする。

修学館体操服の見直しを検討し、デザインと販売価格を決定した。18年度新入生より新体操服の販売を実施した。

##### 2 サービス業務

新入生登校日に、体育服の試着、通学カバン、文具用品等のスムーズな販売ができるよう配置の見直しを行った。

教職員向けの電子辞書、中元、歳暮、忌明け商品等の紹介を実施し、手数料の増加を図った。

体育祭、文化祭での側面からの支援を行い、行事に係る物品の販売価格を引き下げた。

##### 3 コスト意識

体操服、女子制靴、靴下の商品の相見積りで、仕入価格の見直しを実施した。

経費支出の削減に努めた。

以上事業部